

住まいの¹⁴C年代調査 —古民家と住宅建築—

彦部家住宅, 茂木家住宅, 南谷家住宅, 高山寺石水院,
古今伝授の間, 棲雲寺庫裏, 萬福寺天真院客殿

Research into the Use of Radiocarbon for the Dating of Commoner & Upper-class Houses: Hikobe House, Motegi House, Minamitani House, Sekisuiin (Kozanji), Kokin Denju-no-Ma, Seiunji Kuri, Tenshin-in Guest Hall (Manpukuji)

中尾七重・坂本 稔・今村峯雄・永井規男
西島真理子・マーティンモリス・丸山俊明

NAKAO Nanae, SAKAMOTO Minoru, IMAMURA Mineo, NAGAI Norio
NISHIJIMA Mariko, Martin MORRIS and MARUYAMA Toshiaki

はじめに

- ①文化財建造物の¹⁴C年代調査
 - ②建築の種類による年代研究の違い
 - ③事例研究
 - ④結論
- おわりに

【論文要旨】

放射性炭素年代測定を用いた住まいの建築年代調査において、庶民住居である民家と上層住宅の¹⁴C年代調査法の比較研究を行った。民家3棟と住宅4棟の事例報告を行い、年代調査の目的と、¹⁴C年代調査に適した部材選択の条件について検討した。

¹⁴C年代調査は、民家では建築年代に30年程度の幅を持っていても民家研究に有効である。一方住宅では、由緒につながる建築年の是非を明らかにすることが要求される。このように、民家と住宅では目的や意義が異なるため、要求される年代の性質が異なることが分かった。そして目的に沿った部材選択をすることで、民家に対しても、住宅に対しても効果的な結果の得られることが判明した。民家の辺材や皮付きの用材や、芯持ちで年輪幅の大きい用材は¹⁴C年代調査に適しており、古材や前身建物の再利用材を見分けて部材選択を行うことが重要である。住宅の年輪幅の狭い四方柱の用材は¹⁴C年代調査に不適であり、小屋材など辺材や皮付きの用材を選択するのが良い。また数寄屋で用いられる面皮や白太の部材は¹⁴C年代調査に適している。このように、民家と住宅で、調査目的に対応した部材選択や年代考察の方法を明らかにした。

【キーワード】文化財建造物, ¹⁴C年代調査, 民家, 住宅, 建築年代